

第1章

勝浦市の概要

第1章 勝浦市の概要

1 沿革

本市は、千葉県南東部の南東部、都心から約75kmに位置し、東西延長14km、南北延長12.5km、周囲67kmで、面積は93.96 km²となっています。

また、海岸線延長は約30kmを有し、勝浦沖を黒潮が流れ、温暖な気候から豊富な海の幸を受けるとともに南房総国立公園にも指定され、海岸線は岩礁・砂浜と変化に富んだ風光明媚なところでもあります。なかでも、深い入江と海食岩が連続するリアス式海岸の「鵜原理想郷」をはじめ、海食と風化によってできた神秘的な形を醸し出す尾名浦の「めがね岩」、海水浴場としても有名な日本の渚百選のひとつ「鵜原・守谷海岸」、日本の水浴場88選のひとつ「守谷海水浴場」、太平洋と勝浦湾をパノラマのように一望することができる「八幡岬公園」など見飽きることのない自然景観が広がっております。さらに鵜原地先には、東洋一の海中展望塔を有する勝浦海中公園があり、海中展望室からは海底の岩場や生い茂る海草の海中景観のほか、周辺を泳ぎ回る魚たちを観察することができます。

市の北西部は、房総丘陵に属する海拔150～250mの丘陵性山地が広く分布し、地域のほぼ三分の二は山地となっています。

市街地中央部の下本町通りや仲本町通りでは、日本三大朝市のひとつで四百余年の伝統に育まれた「勝浦の朝市」が開かれ、早朝から約70軒もの露店が並び、水揚げされたばかりの新鮮な魚介類のほか、地元の農家で収穫したばかりの野菜や果物などが店頭を飾り、多くの観光客が訪れています。

さらに、国際武道大学は我が国初の武道専門の大学として、昭和59年に開校し、現在では学科も増設され、活気あふれる学園都市を形成しております。

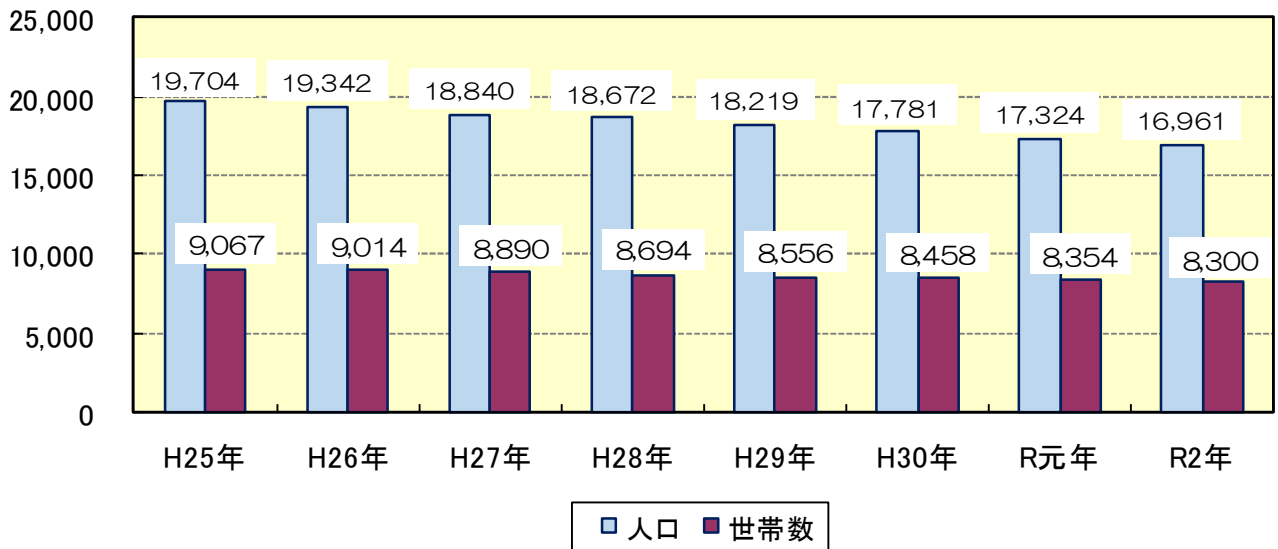
図1-1 勝浦市の位置



2 人口

昭和33(1958)年、市制施行時の人口は31,400人でしたが、年々減少傾向にあり、令和2(2020)年には16,961人となっています。また、世帯数もここ数年減少傾向にあります。

図1-2 人口及び世帯数の経年変化（毎月常住人口調査から）



【毎年10月1日現在】

3 歴史

自然豊かで気候温暖な勝浦では、古くから漁業や農業を中心として人々の暮らしが営まれてきました。往古の姿は定かではありませんが、夷隅川に沿って縄文早期等の小規模な集落が確認されており、また奈良では興津（木簡では置津）からアワビを運んだ記録が発見され都との関係がうかがえます。

戦国時代には安房里見氏の武将正木氏（正木時忠）が勝浦城に入り一帯を領有していました。天正18(1590)年、正木氏が北条氏とともに滅びると、代わって徳川家康の幕臣である植村土佐守泰忠が勝浦城に入城し、家臣団を中心とした町屋を営み、これが現在の中心市街地の基礎となっています。泰忠は農漁業を奨励し、朝市を開設するなど地元の産業振興に尽力しました。その後大岡忠光による支配を経て、岩槻藩領となり明治維新を迎えます。

興津地区は興津郷と呼ばれ、江戸時代は幕府の直轄領であり、妙覚寺に仙台藩取締所が置かれていたため、江戸と東北を結ぶ重要港として栄えました。

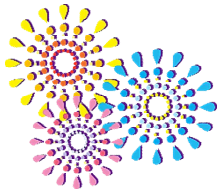
昭和30(1955)年、町村合併促進法により、勝浦町、興津町、上野村、総野村が合併し勝浦町となり、昭和33(1958)年10月1日、市制施行で勝浦市となりました。平成30(2018)年10月1日には市制60周年を迎えました。

4 イベント

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は各種イベントを中止しました。

かつうらビッグひな祭り

徳島県勝浦町から譲り受けたひな人形と全国から寄せられたひな人形の20,000体以上が、まちのいたるところに飾られ、遠見岬神社の石段も雛壇となります。かわいらしいひな行列や各種団体によるイベントなどが、ひな祭りを盛り上げます。



かつうら若潮まつり

遊漁船による勝浦湾体験乗船等さまざまなイベントが繰り広げられる夏の一泊。まつりの最後を飾るのは、夜空に打ち上げられる色とりどりの花火。波穏やかな海面に美しく映えます。

秋まつり『勝浦大漁まつり』

4日間にわたって繰り広げられる秋の一大イベントです。荒々しい海の男の御輿や山車、屋台が街中を練り歩きます。



勝浦鳴海駅伝

海と緑に囲まれた自然豊かな勝浦の美しいリアス式海岸線を、海風に吹かれながら走ります。

5 気象

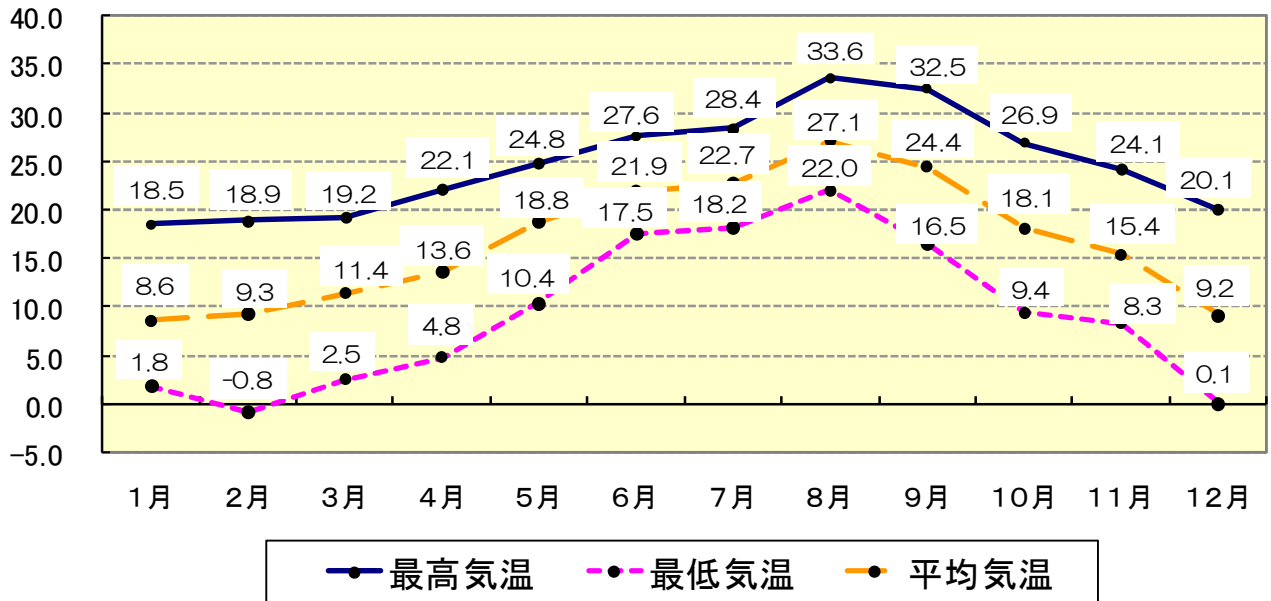
本市は、房総半島の南東部太平洋側に位置し、平坦地の少ない地形です。また、黒潮の影響を受けやすいため、真夏日・真冬日が少ない海岸気候で一年を通じて温暖な気候となっております。なお、風は海上からの南よりの風が強く吹く傾向にあり、風向が東または南東のときの降水量が多いのが特徴です。

過去30年(1990～2019)の平均気温は16.0℃、平均降水量は2,004.6mmとなっております。令和2年(2020)の平均気温は16.7℃であり、最高気温は33.6℃(8月28日)、最低気温は-0.8℃(2月7日)でした。

表1-1 気温の経月変化(令和2年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高気温(℃)	18.5	18.9	19.2	22.1	24.8	27.6	28.4	33.6	32.5	26.9	24.1	20.1
最低気温(℃)	1.8	-0.8	2.5	4.8	10.4	17.5	18.2	22.0	16.5	9.4	8.3	0.1
平均気温(℃)	8.6	9.3	11.4	13.6	18.8	21.9	22.7	27.1	24.4	18.1	15.4	9.2
過去平均(℃)	6.7	7.1	10.0	14.3	18.0	20.8	23.9	25.8	23.5	18.9	14.2	9.4

図1-3 気温の経月変化



令和2年の年間降水量は2,002.0mmであり、最も降水量の多い月は7月(380.5mm)で、最も少なかったのは8月(5.5mm)でした。

表1-2 降水量の経月変化(令和2年)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和2年	178.0	61.0	256.5	195.5	161.5	220.0	380.5	5.5	185.5	279.5	53.0	25.5	2,002.0
過去平均	100.7	107.5	174.9	156.8	164.4	219.0	153.9	114.8	254.8	294.9	177.6	89.9	2,004.6

図1-4 降水量の経月変化

